

愛知県公立大学法人の2022年度業務実績に関する評価結果の概要

全体評価

「存在感と信頼感のある『地域の重要な教育研究機関として活躍する大学』を目指し、自らの強みや特色を生かした機能強化を図り、地域を支える人材の育成、地域との連携や地域への貢献を推進するために、自治体、他大学、産業界などとの連携の一層の強化に取り組む」という中期目標の方向性に沿って

中期計画を順調に実施していると認められる。

項目別評価

大項目	※(1) 小項目	低い ← 評価 → 高い				評価 ※(2)	(参考) 前年度
		I	II	III	IV		
①業務運営の改善及び効率化に関する項目	9			8	1	A	A
②財務内容の改善に関する項目	2			2		A	A
③教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目	2			2		A	A
④その他業務運営に関する項目	4			4		A	A
⑤教育研究等の質の向上に関する項目	45			33	12	— ※(3)	—

※(1) 小項目評価区分
 I : 年度計画を実施していない。 II : 年度計画を十分には実施していない。
 III : 年度計画を十分に実施している。 IV : 年度計画を上回って実施している。

※(2) 大項目評価区分
 S : 特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
 A : 順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
 B : おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
 C : 十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
 D : 業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

※(3) ⑤教育研究等の質の向上に関する評価については、2025年度に行う中期計画総合評価で評価することとしており、2022年度は事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

評価に当たっての意見、指摘等

・2022年度は目標達成に向けた様々な取組を一層進め、中期計画を順調に実施していることは評価できる。

・愛知県立大学では、新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による全学部連携型授業や複数学部連携授業をさらに発展させたこと、愛知県立芸術大学では、アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による特別講座等を実施し、国際的なアーティストや研究者との交流を推進したことを特に評価する。

・業務運営の改善及び効率化に関しては、愛知県スタートアップ推進課や農業総合試験場と連携したスタートアップに関するシンポジウムを開催したことや両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家を招聘した特別集中授業を実施するなど、発展的な起業家育成に関する取組を実施したことを特に評価する。

・第三期中期目標期間の4年目となる2022年度では、様々な取組を重ねており、今後においても中期目標の達成及び更なる向上を期待する。

評価委員会が高く評価した項目

- ①業務運営の改善及び効率化に関する項目
(法人運営)
 - 様々な連携による大学の魅力づくりの推進
- ⑤教育研究等の質の向上に関する目標
(県立大学)
 - 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施
 - データサイエンス等に関する教育を推進
 - 専門教育における効果的な教育カリキュラムの改善
 - 大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し
 - 学部横断型の学際的研究や、産業界等との連携による研究を推進
 - 外部資金の獲得に向けた取組の推進
 - 県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進
- (芸術大学)
 - アーティスト・イン・レジデンスによる国際的なアーティスト・研究者との交流などを推進
 - 学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進
 - 教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元
 - 研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組
 - 愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進

評価委員会が遅れているとした項目

なし